

令和5年度 江戸川区立瑞江中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

| | | | |
|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校教育目標 | 『自ら育つ』 | 目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像 | 【学校像】(1)安心感・清浄感のある学校(2)学ぶことが楽しい学校(3)安全・安心な学校(4)家庭や地域社会との連携を図る学校(5)教職員にとって、働きがいのある学校 【生徒像】み・認め合う生徒 ず・やるを許さない生徒 え・笑顔をもつ生徒 ス・スローガンに(1)思いやりの気持ちと豊かな気持ちをもち、ルールを守る生徒(2)意欲的に学業に努力する生徒(3)積極的に体力向上に努力する生徒(4)物事に真摯に取り組む、誠実な生徒 【教師像】子供の手を伸ばし、高めようとする教師(1)生徒指導、深い愛情と厳しさを併せ持つ教師(2)学習指導、わかる指導を通して知識欲を喚起する教師(3)生徒、保護者、地域から信頼される教職員 |
| 前年度までの学校経営上の成果と課題 | <p><成果>「学力向上」については数学で習熟度別・少人数授業を行っている。小テストを繰り返し行う中で、キメの細かい指導を行い、全国・学力調査でも計算力に関して良い結果を残せた。国語では対話的な学びに積極的に取り組み、全国学力調査では全国平均より高い正答率をあげた。「健全育成」については、特別支援教育推進委員会の定例の話し合いにより一人ひとりの生徒、保護者に寄り添った丁寧な対応ができています。SCやSSWとの連携、保護者とのかかわりは良好である。学校生活全体は学校生活満足度が高い生徒が多く落ち着いた学校生活を送っている。</p> <p><課題>「学力向上」に関しては家庭学習の計画を立てることに課題がある。学年だよりや面談などを通じて、家庭においても協力してもらえるように周知していく。「健全育成」については不登校生徒や特別な支援を要する生徒の対応に課題がある。関連機関のSC、SSWとの連携強化を図りたい。</p> | | |

| 教育委員会重点課題 | <取組項目>・評価の視点 | 具体的な取組 | 数値目標 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 年度末に向けた改善策 | |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| | | | | 取組 | 成果 | 成果と課題 | 評価 | | コメント |
| 学力の向上 | <学力の向上> ・授業改善の推進 学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実 | 定期考査前の補習 各検定前の受験者試験対策補習の実施 放課後学習教室の運営 | 年間35回以上の補習の実施。放課後学習教室の出席率が90%以上にする。 | B | B | ○放課後補習教室を計画的に実施できている。教科単元別検定で、3級合格を目標にして、参加できている生徒も多い。 ●普段は3年生が中心になって参加しているが、参加者が限られたメンバーになっていることに課題がある。 | B | ・いろいろな問題に対して、諦めずに解決できる力を身に付けさせてほしい。 ・問題をシンプルに捉える力をつけてほしい。 | 特に学習の苦手な生徒に対して、参加を促していく。数学科単元別検定で、検定合格を目指す生徒に対して補習参加を促していく。 |
| | <読書本の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 | 朝読書の実施 図書委員会だよりの発行による、おすすめ図書紹介可書の学校派遣制度を活用した、図書館機能の拡充と活用促進 行事の事前学習の中で、探究的な学習に取り組む。 | 週4回10分間の朝読書を年間通して実施する。 新聞やプレゼンテーション作成ソフトを使用し発表に取り組む。 各学年、年間で1度は探究的な学習を設定する。 | A | A | ○朝読書は各学年にしっかりと定着し、教室内で静かに集中して取り組めている。自分に合った本を、学級文庫や図書館などで選ぶ姿勢もあり、読書に対する意識も高くなっている。また、行事などでの調べ学習により、探究する力も身に付けている。 | A | ・インターネットに依存し、読書離れが懸念していると聞くので、読書はこれからも推奨して欲しい。 | 図書館の利用の啓発や良書の紹介などを、図書館支援員の協力のもと行っていく。 |
| | | | | | | | | | |
| 体力の向上 | <運動意欲や基礎体力の向上> | 体力テストの測定と結果の活用 部活動の推進 食育指導日の設定 | 体力テストの体力合計点が都の平均を目指す。 栄養士と連携し、第1学年において食育と体力向上の授業を年1回設定する。 | B | B | ○体力テストの結果は、2、3年生は概ね都の平均と同じ程度である。 ○食育と体力向上の授業を現在立案中であるが、予定通り実施できそうである。 ●体力テストの結果で、1年生が都平均より低いことが今後の課題となる。 | A | ・部活動を含め、運動にしっかりと取り組んでいる様子が見える。 | 部活動や昼休みの校庭あそびを通して、1年生の体力も向上させていく。 |
| | | | | | | | | | |
| 共生社会の実現に向けた教育の推進 | <特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実 | 特別支援教育コーディネーターを中心としたSC・特別支援巡回指導員・特別支援巡回心理士・SSWと連携した特別支援教育推進委員会での情報共有と解決策の検討会実施 | 毎週火曜日、時間割の中に特別支援教育推進委員会を設定。5月に校内研修会で生徒の情報交換会を実施する。 | A | A | ○毎週火曜日、時間割の中に特別支援教育推進委員会を設定し計画的に実施できている。 ○5月に校内研修会で生徒の情報交換会を実施し、有意義なものにできた。 | A | ・支援が必要な生徒の理解に努め、指導を行っていると感じる。 | 年間を通して、特別支援推進委員会を毎週開催し、生徒理解に努めていく。 |
| | | | | | | | | | |
| 子どもたちの健全育成 | <子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hupaer-QUIの活用 | エンカレッジルームでの不登校改善に向けた個別の支援 生活指導部の充実および特別支援委員会の充実 生徒にとって過ごしやすい学級づくりを目指す | エンカレッジルームが巡回指導で使用されていないときに、不登校対応の部屋として効果的に活用する。 毎週火曜日の特別支援委員会、木曜日の生活指導部の打ち合わせを実施。 学級生活満足群の人数割合が、各学年平均で50%以上になることを目指す。 | A | A | ○別室指導支援員制度を活用し、エンカレッジルームは毎日利用されている。 ○土曜授業における保護者の授業参加率は30%程度であった。 | A | ・不登校対策は瑞江中学校が重点を置いている部分でもあるので、関係機関と連携しこれからの解決に取り組んでほしい。 | 不登校になっている生徒に対して、積極的にエンカレッジルームの情報を発信し、必要に応じて利用を勧めていく。 |
| | | | | | | | | | |
| 地域に広く開かれた学校(園)の実現 | <自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実 | 多様な情報発信を行い、地域における学校の説明責任を果たす | ホームページに毎日の給食の献立のアップする。 ホームページに週に3回程度学校での出来事をアップする。 年に4回ある土曜授業において、保護者の参観参加率30%を目指す。 | A | A | ○ホームページに給食の献立を毎日アップできている。 ○ホームページに週3回程度学校の様子をアップし、地域保護者への情報提供に努めている。 ○土曜授業における保護者の授業参加率は30%程度であった。 | A | ・ホームページに掲載している、本日の「できごと」と「給食」は学校の様子を知る上でとても良い。今年度は更新頻度が増していると感じる。 | 学校の様子を週4回程度アップしていく。 ホームページや学校だよりで土曜授業のお知らせをしていく。 |
| | <学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施 | 学校だよりの充実 学校公開週間における普段の授業の参観 | 月に1度学校だよりの発行を行う。 年に2回ある学校公開週間で、それぞれ保護者の参加率40%を目指す。 | A | B | ○月に1度学校だよりを発行できている。 ●学校公開週間の保護者の参加率は30%程度であった。 | A | ・学校だよりが月の初めに発行されているのは、今月の予定を知ることができ、とても良いことなので、今後も続けてほしい。 | 月初めに学校だよりは発行することを旨とする。 ホームページや学校だよりで学校公開週間のお知らせをしていく。 |
| | | | | | | | | | |
| 特色ある教育の展開 | ・授業力の向上とALTの効果的な活用および英検の充実 | パフォーマンステストやスピーチでALTを効果的に活用。 ・英語検定対策を設定する。 | 年間36日派遣されるALTを各学年授業で活用する。 放課後のカンパセーションクラブで会話を慣れさせ、英語検定3級の2次合格率100%を目指す。 | A | A | ○ALTの入った授業を各学年計画的に行っている。 ○英検3級の2次合格率は93%と100%に近い結果を残せた。 | A | ・英検3級の2次合格率がほぼ100%というのは素晴らしい。今後も期待したい。 | 英検1次合格者に対して、カンパセーションクラブの参加を更に促し、英検3級の2次合格率100%を目指す。 |
| | 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施 | 一斉退勤日の設定 学校閉鎖期間の設定 部活動指導員・外部指導員の活用 | 教員の時間外在長時間を80時間以下を目標とする。 | B | B | ●教員の時間外在長時間が80時間以上になっていることもある。 | B | ・先生の働きすぎの原因は何なのかを分析し、改善してほしい。 | 効率的な業務を行うことと、退勤の呼びかけを行うことで改善していく。 |